

富田地区むらづくり運動推進協議会

- ①環境美化施設設置事業（新田区）
- ②コミュニティー施設維持管理事業（新塚原区）
- ③とみたのお宝発見・発信事業

1. 基本データ

- (1) 地区名 富田地区
- (2) 地区人口 3, 257人
(平成26年3月1日住民基本台帳)
- (3) 面積 21.7k㎡
- (4) 地区の沿革

富田地区は、東は九頭竜川、西は真名川の二大河川に挟まれ、日本百名山に数えられる荒島岳のふもとから、東西約4km南北約7kmに細長く広がる純農村地帯。

- (5) 実施主体

富田地区むらづくり運動推進協議会



2. 現状と課題

富田地区むらづくり運動推進協議会では、市民憲章を基調とし、富田地区の将来にわたって明るく豊かな地域の実現を図るため、地区住民が、自らの手による活気ある地域づくりの推進に努めている。

しかし、各集落においては、区長を中心と

して様々な地域づくりに関する活動が行われていることに対し、富田地区全体となると、「花いっぱい運動」等の環境美化作業や「とみた夏まつり」以外には特筆すべき地域づくりの活動も見られず、協議会もそれらの運営に終始し、イベント終了後には活動が低調になっている。

この状況から脱却し、地域が一体となって取り組む、新たな地域づくりの方策を模索しているところである。



とみた夏まつり「みんなで踊ろう大野音頭」

3. 事業の内容

平成22年度から3年間の「越前おおの地域づくり交付金事業」では、富田地区農地環境保全協議会が造成したビオトープに、むらづくり運動推進協議会集落委員を中心とした地区住民の協働作業により休憩所と観察棟を整備し、地区住民が集う「安らぎと憩いの場」づくりを行った。



**むらづくり環境部員による除草作業
休憩所（中奥・H22） 観察棟（右・H23）**

とみた夏まつりでは、ビオトープの風景を題材としたフォトコンテストを開催し、地区住民にビオトープを周知するとともに、地域づくりの拠点として活用することをPRした。

また、富田小学校児童の環境学習と自然体験活動の場として積極的に利用され、子どもたちの弾んだ声が聞こえるとともに楽しそうな笑顔が見られ、活気に満ちた場所となっている。



ビオトープ観察会

さらに、平成23年度には4集落へ、平成24年度には9集落へ、それぞれが抱える問題を住民自らが解決する協働作業に対して支援をする地域コミュニティー活動支援事業にも取り組んだ。



上野区イベントテーブル整備（H23）



塚原区安全柵修繕（H23）



七板区集落案内板改修（H24）



新河原区集落センター敷地改修（H24）



井ノ口区集落センター安全柵修繕（H24）

こうした取り組みにより芽生えた、住民が自らの力で課題を解決しようとする動きを今後の「結の故郷づくり交付金事業」に継承するため、平成25年2月26日に地区区長会とむらづくり協議会の役員13名による検討会を開催した。

検討会では、人のつながりが生まれるような事業や継続性のある事業の実施を望む意見が出されたほか、むらづくりのビジョンやキーワードについて意見交換がなされ、今後の取り組みが具体的に示された。

その一つは、未実施集落でのコミュニティー活動への支援である。富田地区18集落のうち5集落での取り組みがされていないことから、公平性を保つことから支援事業を継続することにした。意向調査の結果、新田区のゴミ集積ボックスの更新と新塚原区の集落センター敷地の改修を支援することになった。

二つめが、とみたのお宝発見・発信事業である。富田地区の名所や史(旧)跡、文化財、それらにまつわる言い伝えや民話、芸能、集落が自慢の話や場所などを「とみたのお宝」として掘り起しをし、住民が再認識するとともに後世に継承する。また、地区外へも情報発信することを目的として、平成25年度には、お宝情報の収集とそれを掲載したマップの作製に取り組んだ。

4. 事業の成果

①環境美化施設設置事業

- ・ゴミ集積ボックスの更新：新田区

老朽化したゴミ集積ボックスの更新に合わせて設置場所を集落中心部に移したことにより、区民の環境美化意識と使い勝手の向上が

図られた。

土間打ち作業



型枠撤去作業



設置完了



②コミュニティー施設維持管理事業

- ・集落センター敷地改修：新塚原区

区民が集い交流を図る地域づくりの拠点や災害発生時の避難の拠点など、多目的な機能を有する集落センターの敷地を舗装することにより、利便の向上が図られた。

土間打ち作業



生コン打ち作業



③とみたのお宝発見・発信事業

マップを地区内全戸に配布し「とみたのお宝」を周知するとともに、住民は、後世へ引き継がなければならない「宝」であることを再認識した。また、富田小学校と尚徳中学校へは、ふるさと学習の資料として活用されるよう依頼をし、児童生徒が身近にあるふるさとの宝に気付き、興味を持たれるよう期待するところである。さらに、観光協会や結ステーション、道の駅等の観光施設に配置し、観光客等へ地区の魅力を発信することで誘客を図り、地区の賑わいを創出していく。



とみたのお宝マップ 解説面



とみたのお宝マップ 地図面

5. 今後の展望

とみたのお宝発見・発信事業の第1弾となる「とみたのお宝マップ」の取り組みは、住民でさえも忘れていたり、何気ないことであったものが、先達者や自らが育んだ、自慢のできる地区の「宝」であることへの気付きともなった。

今後は、お宝ポイントへの誘導看板や言い伝えを記した案内板の設置などによる環境整備を行い、その魅力をさらに高めるとともに、住民を対象にした「宝」の解説講座や「お宝を巡る・とみたの遠足会(仮称)」などによるコンシェルジュ(案内人)づくりに取り組むなどし、来訪者の受入態勢を整えていく計画である。



富田の史跡よもやま話講座
(H25 結の故郷・人づくり講座)